

「デジタル文化資源ネットワークの現状と課題—変容するライブラリー・ミュージアム・アーカイブの役割」

後藤和子（摂南大学経済学部）

知的財産が国際競争力の重要な源泉であるという認識に基づき、2000年代以降、国家プロジェクトとしての知的財産戦略が推進されてきた。その中には、図書館や美術館・博物館、公文書館で、個別に蓄積されてきた情報や文化的コンテンツをデジタル化し、更にネットワーク化して巨大な文化ストックを創り出すことも含まれている。しかし、この間、個別の施設の努力で文化資源のデジタル化が少しずつ進んではきたものの、それらを一体的に検索できるネットワーク化は、まだ実現できていない。

他方、海外に目を転じると、ヨーロッパやアメリカのみでなく、アジアの国々でも英語によるデジタル文化資源ネットワークの構築が進み、世界中から膨大な情報にアクセスできるようになっている。

シンポジウムでは、情報経済や知識経済にとってのデジタル文化資源ネットワークの意味、日本と海外の現状、更に、変容するライブラリー・ミュージアム・アーカイブの役割にも触れながら、グローバル化時代の文化資源（人文学の成果）活用の可能性と課題について述べたい。

1、情報経済の特徴

- ・ブロードバンド、プラットフォーム、コンテンツの3層構造
- ・ネットワーク外部性、二面市場という新たなビジネスモデル、独り勝ちとロングテール
- ・日本の現状と課題

2、デジタル文化資源ネットワークの現状と課題

- ・グーグルショック
- ・ヨーロピアナ（2008年～）、全米デジタル図書館（2013年～）
- ・日本の知的財産戦略と文化資源のデジタル化

3、変容するライブラリー・ミュージアム・アーカイブの役割

- ・デジタル化で容易になった MLA（ミュージアム・ライブラリー・アーカイブ）連携
- ・変容する図書館の役割・・・人々の記憶をキュレーションする（シンガポール）
- ・文化資源は経済的競争力の源泉・・・ビジネスと公的資金の境界は？

電子書籍と印刷・出版・流通のコングロマリット

4、デジタル文化資源をめぐる日本の可能性と課題

人文学翻訳プロジェクトが目指すべきもの